

# 視察研修

に行つてきました

4月から6月までの活動レポートです

## 生ゴミの有効活用について視察

総務常任委員長 茂木 信義

当委員会は、5月11日、栃木県高根沢町を視察し、生ゴミの有効活用に関する調査を行った。

### 〔調査経過〕

高根沢町（人口3万1000人）市街地1万9000人・農村地1万2000人）は、生ゴミを分別し、堆肥化により可燃ごみの減量を図ると同時に、安全な農作物の生産に役立て、地産地消を通して住民に還元している先進自治体である。

### ○高根沢町の

基本的な考え方

生ゴミの分別（住民）↓堆肥化（土づくりセンター）↓安全な農作物（農

家）↓地産地消（住民）この循環型町づくりを通して、人づくりを行っている。

### ○生ゴミの分別回収状況

市街地—92%の分別協力  
農村地—各自でコンポスト化  
自農地へ還元

### 〔考察〕

生ゴミの有効活用は

- ① 住民の分別作業と地産地消の理解・協力
- ② 農家の土づくりに対する理解・協力
- ③ 町の環境に対する信念と安全・安心の施設造り

この3要素がトライアングルとなって、循環型町づくりを目指さないと成功しない。



「高根沢町土づくりセンター」を視察

地域環境、身近な生活環境を守るために「エゴからエコへ」の意識改革を図るべきである。

行政情報放送事業（FMたまむら放送委託）の現状を調査

6月8日、開会中の所管事務調査を行い、FMたまむら放送委託の現状について調査した。

### 〔調査項目〕

行政情報放送事業（FMたまむら放送委託）について

FM放送は本年3月31日から正式放送が始まり、町は5月1日から翌年3月31日までの間、株式会社FMたまむらと委託契約を結び、1日3回行政放送番組の放送を開始した。

### 〔考察〕

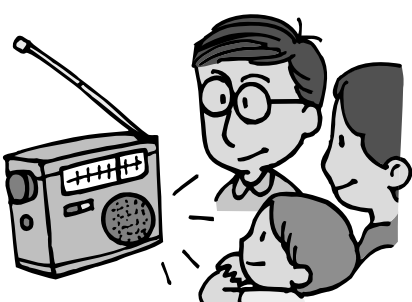
・災害時の緊急放送や防災情報も必要である。将来的には防災無線を併用し、防災情報伝達に活用すべきだ。（村田委員）



・いつでも聞いてもらえるよう、常に町民に関心を持たせる放送を望む。（高田委員）

・受信可能な設備を整えて欲しい（中里委員）  
町の考え方

初年度のため、通常放送のみの委託であるが、今後は防災にからめて、FMたまむらを活用する方向で協議していくとのことである。



# 終末処理場施設の上部運動公園を視察

経済建設常任委員長 関口 祝嘉

当委員会は、5月11日、

千葉県花見川終末処理場施設の上部運動公園を視察し、下水道処理施設と用地の有効活用に向けた取り組みについて調査した。

## 〔調査経過〕

昭和40年代、東京から50kmにある印旛沼は、その流域の急速な開発と都市化により沼の水質は悪化し、貴重な水質源を保全する必要に迫られていた。

そこで、主として印旛沼流域を対象とする印旛沼流域下水道が昭和43年12月に都市計画決定され、県が建設を進めてきた。

15市町村の生活排水や工場排水を、花見川終末処理場および花見川第二終末処理場で処理している。

花見川終末処理場は昭和49年4月に供用開始、花見川第二終末処理場は平成6年6月に一部供用開始し

た。

花見川終末処理場の処理施設の上部には、空間を有効に活用するため、野球、サッカーなどの運動競技や

散策が楽しめる広場(約4ha)を設置している。

この広場では、処理場で高度に処理された水を、散

水、水洗トイレ用水及び管理棟などの冷暖房の熱源として利用しており、水質源の再利用に努めている。

なお、利用者については、平成16年度―約5万5000人、平成17年度―約7万人となっている。



運動競技もできる処理施設の上部公園

# 「ピンピンころりの里」佐久市へ対策事業視察

文教福祉常任委員長 三友 美恵子

当委員会は、5月10日、

健康長寿宣言都市である佐久市を視察し、健康長寿の取り組み諸施策と高齢者対策事業について調査した。

## 〔調査経過〕

佐久市は、  
①寝たきりの高齢者の人数が少ない。  
②85歳以上高齢者の就業率が高い。  
③老人医療費が低い。  
④90歳以上の高齢者の活動余命が長く、亡くなる直前まで働き、最期は自宅を迎える人が多い。

以上のことから、この市は「ピンピンころりの里」として知られている。

人間は高齢になると4つのものを失う。『1.健康の喪失』『2.社会的つながりの喪失』『3.経済基盤の喪失』『4.生きがいの喪失』である。この4つの要因を

柱に、高齢者対策が57のメニューで動き、これらの対策の効果として老人医療費が減っている。

## 〔考察〕

今後急速に高齢化していく当町において、高齢者の健康長寿と生活余命を伸ばすことが、老人医療費の抑

制や介護保険料の抑制に必要である。佐久市のように、きめ細かなニーズを把握した行政の支援と、お金をかけなくても知恵を出し合い地域が協力できる支援、高齢者と地域が助け合い、生きがいを持って生活できる社会の構築が必要である。



特別養護老人ホーム『シルバーランドみつい』を視察